

第 7 回 2018 年 11 月 14 日 (水)

第 7 回の一류塾は、講師に三枝 匡氏 (株)ミスミグループ本社シニアチェアマン・第 2 期創業者) をお迎えしました。講義は、『明日を担う経営者人材の条件ー日本企業の強さ再構築をめざしてー』と題して、三枝氏お一人にご担当いただきました。



【講師 三枝氏】

序盤では、経営者に求められる「フレームワーク」について講義いただきました。この中では、強い企業には必ず「フレームワーク」を生み出し、共有することに長けたリーダーがいることをご紹介いただき、リーダーの力量はフレームワークで決まるとご説明いただきました。概念的な内容にもかかわらず、三枝氏のプロ経営者としてのご経験を交えながら、具体的に分かりやすくご説明いただきました。

続いて、『『日本の経営』の歴史観』と世界の事業革新のメガトレンド』についてお話しいただきました。1960 年代から現在までの日米企業の凋落・復興の変遷や逆転の構図とその背景や原因について、卓越した視点からの分析をお示しいただき、また、歴史から学ぶべき教訓と海外企業に大きな遅れを取っている日本企業の課題を、強い危機感とともに語っていただきました。そのうえで、日本の経営者は経営リテラシーが未熟で、海外の経営者に負けない経営リテラシーを身に付けなければ、グローバルな競争には勝ち残れないことを強い口調で塾生に伝えられました。

終盤では、「変革を成し遂げる智と力」と題して、業績が悪化する状況を打開し、厳しい市場環境の中でも成長し続けるよう組織を変革するための取り組みについてお話しいただきました。冒頭で紹介されたフレームワークの概念を、具体的に経営にどのように活用するかについて、ご自身が経験した変革の事例などを用いてご説明いただき、塾生の理解が大いに深まりました。講義の最後には、経営リテラシーである「論理」に支えられた経営を行い、そこに「情」を添えることが強いリーダーの道であるとの言葉で塾生を激励されました。

講義の後には、一柳塾長がファシリテーターとなり、三枝氏と塾生とのディスカッションが行われました。塾生からは、自社で変革を推進するための具体的なポイントや課題、三枝氏のご経験などについて、多数の質問があがりました。三枝氏からは、ご自身のお考えに加え、問題の本質を問い直しながら塾生の理解を深めるよう促され、活発なディスカッションとなりました。



講義の様子



ディスカッションの様子

塾生からは、「日本企業が米国企業に逆転された歴史の話は非常に衝撃的で、勉強不足に恥ずかしさを覚えた」、「どのセッションでも頭を思いっきり殴られたような衝撃を受けた」、「自分の経営リテラシーの低さを認識した。今日いただいたフレームワークを借りて、自分のものに変えていくチャレンジを繰り返そうと決意した」といった声があがりました。

講義後に行われた、塾生有志が塾長を囲んでの放談会では、緊張から解き放たれた塾生と塾長との交流が深夜まで続きました。



放談会風景

なお今回塾生は、三枝氏の下記の必読書を事前学習し、事前課題レポートを提出して講義に参加しました。

『増補改訂版 V字回復の経営』日本経済新聞出版社 (2013年6月)

『ザ・会社改造 340人からグローバル1万人企業へ』日本経済新聞出版社 (2016年9月)